

令和八年度 学校推薦型選抜問題 (指定校A・C特待)

国語

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題用紙、解答用紙に手を触れないこと。
- 二、受験番号・氏名は、必ず所定の箇所にも明記すること。
- 三、解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に黒鉛筆で記入すること。
- 四、解答欄の枠は、設問数より多い場合があるので注意して記入すること。
- 五、試験中、必要がある場合には挙手すること。
- 六、試験終了後、問題用紙、解答用紙を、持ち帰ってはならない。

# 1

次の文章は伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』の一部である。これを読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

「障害者」というと「障害を持っている人」だと一般には思われています。つまり「目が見えない」とか「足が不自由である」とか「注意が持続しない」とかいった、その人の身体的、知的、精神的特徴が「障害」だと思われている。

しかし、実際に障害を抱えた人と接していると、いまだ根強いこの障害のイメージに対しては、<sup>②</sup>強烈に違和感を覚えます。タンテキ<sup>(ア)</sup>にいつて、こうした意味での障害は、その人個人の「できなさ」「能力の欠如」を指し示すものです。「できなさ」や「能力の欠如」だから、触れてはいけないものと感じられる。

何人もの研究者が指摘していますが、こうした個人の「できなさ」「能力の欠如」としての障害のイメージは、産業社会の発展とともに生まれたとされています。現代まで通じる大量生産、大量消費の時代が始まる時期、均一な製品をいかに速くいかに大量に製造できるかが求められるようになりました。その結果、労働の内容も I <sup>③</sup>されていきます。車を作るのに、Aさんが作ったのとBさんが作ったのでは出来上がりが違うのでは困る。「誰が作っても同じ」であることが必要であり、それは「交換可能な労働力」を意味します。

こうして労働が I <sup>④</sup>したことで、障害者は「それができない人」ということになってしまった。それ以前の社会では、障害者には障害者にできる仕事が割り当てられていました。ところが「見えないからできないこと」ではなく「見えないからできないこと」に注目が集まるようになってしまったのです。

こうした障害のイメージに対しては、一九八〇年ころから、世界各国で疑問がつきつけられるようになります。さまざまな論争や事件の詳細な歴史はここでは記しませんが、「個人のできなさ」とは違う形で障害をとらえる考え方が モサク <sup>(イ)</sup>されました。こうした運動は「障害学」という新しい学問をも生みだしました。

そして約三十年を経て二〇一一年に コウフ <sup>(ウ)</sup>・施行された我が国の改正障害者基本法では、障害者はこう定義されています。「障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な セイゲン <sup>(エ)</sup>を受ける状態にあるもの」。

II、社会の側にある壁によって日常生活や社会生活上の不自由さを強いられることが、障害者の定義に盛り込まれるようになったのです。

⑤  
 ジュウライの考え方では、障害は個人に属していました。ところが、新しい考えでは、障害の原因は社会の側にあるとされた。見えないことが障害なのではなく、見えないから何かができなくなる、そのことが障害だと言うわけです。障害学の言葉でいえば、「個人モデル」から「社会モデル」の転換が起こったのです。

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

(ア) タンテキ ア

- ① 私がその業務をタントウする。
- ② タンジュン明快な話だった。
- ③ 字がタンセイで読みやすい。
- ④ タンスイの生き物を観察した。
- ⑤ タンシヨを強みに変える努力。

(イ) モサク イ

- ① インターネットでケンサクする。
- ② サッカーの試合のサクセンを立てる。
- ③ ムサクゆえの失敗だった。
- ④ サ克蘭状態に陥る。
- ⑤ 崖に防護サクが設置された。

(ウ) コウフ ウ

- ① コウカン度が高いタレント。
- ② 新しい小説がカンコウされる。
- ③ コウカイせぬよう全力を尽くす。
- ④ コウゼンたる差別に抗議する。
- ⑤ 腹痛にコウカがある薬。

(エ) セイゲン エ

- ① セイフは対策を強化した。
- ② 福祉セイドの改革が求められている。
- ③ 夜のセイジャクに包まれて眠る。
- ④ 荷物をセイリして引っ越す。
- ⑤ カンセイの豊かな児童。

(オ) ジュウライ オ

- ① 相手をカイジュウして味方にする。
- ② 金属のヒジュウを測定する。
- ③ ジュウオウ無尽に動き回る。
- ④ 締め切り前に定員がジュウソクする。
- ⑤ ジュウゼンの方法を踏襲する。

問2 文中の空欄 I には同じ語句が入るが、ここに入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 カ

- ① 複雑化
- ② 単純化
- ③ 簡略化
- ④ 画一化
- ⑤ 一元化

問3 文中の空欄 II に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 キ

- ① それゆえ
- ② つまり
- ③ しかし
- ④ 具体的には
- ⑤ すると

問4 傍線部①について、「障害者」に対する「一般」の認識とは、ここではどのようなものとして説明されているか。最も適当なものを、

次の①～④のうちから一つ選べ。 ク

- ① 「障害」とは、「障害者」が先天的に有している身体的、知的、精神的な能力の欠如である。
- ② 「障害」を抱えていることは「障害者」の責任ではないため、周囲が協調してケアをする必要がある。
- ③ 「障害」という概念は、「障害者」が抱えている身体的、知的、精神的特徴を指している。
- ④ 「障害」という表現はネガティブなイメージを与えるため、「特徴」と呼ぶべきである。

問5 傍線部②について、ここでいわれる「違和感」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
ケ

- ① 実際に接する障害者は必ずしも日常に不便を感じているわけではないにもかかわらず、ひとくくりに「障害者」と呼称する違和感。
- ② 実際に接する障害者は障害を可能な範囲で克服しようとしているにもかかわらず、能力が欠如しているという先入観から「障害者」と呼称する違和感。
- ③ 一般の認識における「障害」はネガティブなものであり、それゆえに障害者が能力の欠如を責められてしまうという違和感。
- ④ 一般の認識における「障害」はそれを抱える人の欠陥を意味するものであり、それゆえに障害者に対する忌避を生んでしまうという違和感。

問6 傍線部③について、「交換可能な労働力」とはどのようなものか。ここでの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
コ

- ① 製品を、決められた通りに均一に製造することができる労働力。
- ② 大量消費の時代に適応し、製品を早く、大量に製造することができる労働力。
- ③ 類似した別の製品の製造にもすぐ従事することができる労働力。
- ④ 製品を短期間に大量生産することを可能にするための低賃金の労働力。

問7 傍線部④について、「『見えないからできないこと』に注目が集まるようになってしまった」の説明として最も適当なものを、次の①～

④のうちから一つ選べ。 サ

① 産業社会の発展がもたらした労働の変化により、自分にできる労働を割り当てられている障害者であっても、その人の「できないこと」が注目されるようになったということ。

② 産業社会の発展がもたらした労働の変化により、障害者は労働に従事しづらくなり、障害者にとって「できないこと」が目立ちやすくなったということ。

③ 産業社会の発展がもたらした労働の変化により、労働に従事できない者が現れるようになり、その者たちが障害者とされるようになったということ。

④ 産業社会の発展がもたらした労働の変化により、障害者が従事できる労働は増えていったが、一方では「できないこと」への注目も集まるようになったということ。

問8 傍線部⑤について、「転換」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

シ

① 「できないこと」の責任が個人に属する「個人モデル」から、障害がある人の支援を社会が包括的に行う「社会モデル」への転換。

② 「できないこと」があるゆえに障害者が目立ってしまう「個人モデル」から、「できないこと」への注目を社会全体で減らそうとする「社会モデル」への転換。

③ 「できないこと」を克服して「できること」を増やそうとする「個人モデル」から、「できないこと」を社会でそのまま許容する「社会モデル」への転換。

④ 「できないこと」を個人の側の障害と捉える「個人モデル」から、「できないこと」を生じさせる社会の側に障害の原因があると捉える「社会モデル」への転換。

次の文章は港千尋『写真論』の一部である。これを読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

時に移ろう世界を保存したい。いまの輝きを永遠に残したい。人の心にそんな願いが生まれたのは、いつのことだろう。①光でつくられる像を化学の力で定着しようというアイデアが芽生えてから、そろそろ二世紀が経とうとしている。これまで歴史的にはフランス政府がダゲールの特許を買い上げた一八三九年が写真の公式の誕生年とされてきたが、本書では写真における探究と実験に注目するため、ニエプスによる最初の実験の成功と伝えられる一八二二年に遡ることにする。そしてこの二〇〇年という短いようで長い期間のうちに、試行錯誤を繰り返しながら成長した写真を、主に社会との関係において捉え直すとともに、それが人間の意識や記憶にとって、どのような役割を果たしてきたかを考えてみたい。

二〇〇年間に生まれた写真の量<sup>(ア)</sup>はボウダイである。その多くは消えていったが、写真史にはいくつか、時代のアイコンとして刻まれたイメージがある。撮影された時点ではカメラを手にした当人にもわからないのだが、それが流布してゆくあいだにさまざまな意味やカイシヤク<sup>(イ)</sup>が加えられて、次第に集合的な記憶に変化する。たとえば英語圏で「ブルー・マーブル」の呼び名で知られる、宇宙から見た地球の姿がそれにあたる。宇宙空間から撮影された写真はいくらかもあるが、<sup>(2)</sup>定冠詞付きの「ザ・ブルー・マーブル」は、一九七二年十二月七日、アポロ十七号の乗組員によって撮影された一枚で、NASA（アメリカ航空宇宙局）によれば史上最も広く知られた写真のひとつということである。

漆黒の宇宙に浮かぶ青い惑星。人類の目に焼きついていると言っているようなイメージだが、少なくとも知名度の点では勝るとも劣らない写真が生まれたのが二〇二〇年ではなかったか。新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真である。ウイルスの正体が特定されてから一年以上にわたり、国や地域を問わず、この写真が登場しないニュースはなかった。メディアへの登場回数は、それをどうカウントするにせよ、すでにブルー・マーブルを超えたのではないかと思われる。

英語で「青いビー玉」を意味する地球の写真は、七〇年代に隆盛する環境保護運動に、強いインパクトを与えた。伝説的な雑誌『全地球カタログ』の終刊号のカバーをはじめ、登場したメディアは数えきれないが、その多くに「I」といったメッセージが託されていた。環境

問題への目覚めを呼びかけるポジティブなイメージだ。

新型コロナウイルスの写真は、Ⅱ。感染の拡大、クラスターの発生、都市フウサ<sup>(ウ)</sup>……。ニュースのたびに映し出されるウイルスの姿は、恐怖と忌避を喚び起こすテッテイ<sup>(エ)</sup>的にネガティブなイメージである。いまでは多くの人にとって、それを目にするこすらうんざりさせられるのが、あの「灰色の冠」であろうが、わたしはふたつのイメージに、どこか共通するものを感じる。見るという経験として考えた場合、スケールや解像度の点からも不思議な対照をなすように思う。

電子顕微鏡でしか見えないモノを、画像として毎日のように見せられるという経験は、奇妙である。正体をはつきりさせるといふ目的は理解できても、Ⅲ。それで何が理解できるようになるというのか。ナノメートルサイズのウイルスを雑誌の表紙にした場合、その比率で人間はどう見えるのか。地球をビー玉に縮小してテレビ画面で眺めるとき、同じ比率の人間は、どこに行ってしまうのだろう。発明以来、わたしたちは光学的な拡大と縮小を写真の常識として受け入れながら、実に多様なイメージに囲まれて生きている。およそ半世紀の時をへだてた地球とウイルスの像は、わたしたちが直接その姿を知覚できないからこそ、④集合的な経験として長く影響を及ぼすに違いない。

(※) 本書……出題した文章の出典である『写真論』。出題した文章は同書の冒頭にあたる。

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

- (ア) ボウダイ ア
- ① ランボウな言葉遣いをとがめる。      ② インボウが密かに進行する。
- ③ 熱で金属がボウチヨウする。      ④ コウボウで作品を制作する。
- ⑤ ボウ読みで感情が伝わらない。

(イ) カイシヤク  
イ

- ① シヤクヨウしていた機材を返却する。
- ② 遅刻の理由をシヤクメイする。
- ③ 父にはバンシヤクの習慣がある。
- ④ バンシヤクの体制で臨む。
- ⑤ コンシヤクの風景の変化に驚く。

(ウ) フウサ  
ウ

- ① 事故がレンサ的に発生した。
- ② 新旧の情報のサブンを確認する。
- ③ 遠隔ソウサが可能な装置。
- ④ 金銭をサシユした疑いがある。
- ⑤ サガンに住宅地が広がる。

(エ) テツテイ  
エ

- ① 書類のテイサイを整えて提出する。
- ② 被害のテイドを確認する。
- ③ 在庫が完全にフツテイした。
- ④ テイスウを超えても応募があった。
- ⑤ 映画の内容がテイキユウで退屈だ。

(オ) ヘダテた  
オ

- ① 論文に図表をソウニユウする。
- ② クウゲキなく荷物を詰める。
- ③ クカク整理が進められる。
- ④ 世間とカクゼツして暮らす。
- ⑤ 政教ブンリの原則を守る。

問2 文中の空欄 I に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

カ

- ① わたしたちの技術はかくも発展し、ビー玉のように美しい
- ② わたしたちの技術はかくも過剰で、ビー玉のように壊れやすい
- ③ わたしたちの惑星はかくも青く、ビー玉のように美しい
- ④ わたしたちの惑星はかくも美しく、ビー玉のように壊れやすい

問3 文中の空欄 II に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

キ

- ① これとよく似たイメージを提示する
- ② これと同じくらい有名な写真である
- ③ これとは正反対だろう
- ④ ここまで有名ではない
- ⑤ この写真を思い起こさせる

問4 傍線部①「光でつくられる像を化学の力で定着しようというアイデア」は、本文の他の箇所で見られている語句を言い換えたものである。その語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

ク

- ① ダゲールの特許
- ② 写真
- ③ 試行錯誤
- ④ 時代のアイコン
- ⑤ 光学的な拡大と縮小

問5 傍線部②について、「定冠詞付きの」とはここではどのような意味で用いられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～

④のうちから一つ選べ。 ケ

① 類似するものとは明確に区別される特定の一つであるという意味。

② 歴史上きわめて有名なものの一つであるという意味。

③ 流布するあいだにさまざまな意味が付け加えられているという意味。

④ 見る者にさまざまなイメージを思い起こさせるという意味。

問6 傍線部③について、「どこか共通するものを感じる」とはどのような意味か。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちか

ら一つ選べ。 コ

① どちらも、見る者に強い政治的なメッセージを伝えて、社会を動かした歴史的な写真であるという意味。

② どちらも、被写体を光学的な技術で微細に記録して、大衆に正しい科学知識を広めた写真であるという意味。

③ どちらも、通常は知覚できないサイズの対象物を視認可能にし、人の目に繰り返し触れた写真であるという意味。

④ どちらも、最先端の技術を使って撮影され、そのインパクトから人類の目に焼きついている写真であるという意味。

問7 文中の空欄 Ⅲ に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

サ

① 再三                      ② 大抵                      ③ 実際

④ 全然                      ⑤ 案外

問8 傍線部④「集会的な経験」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

シ

- ① さまざまな意味が加えられた、時代のアイコンというべき写真を、大勢の人が何度も見た経験。
- ② その時代の時事風俗を象徴する対象物を捉えた写真を、次の世代の者が見る経験。
- ③ 時代のアイコンというべき社会事象を捉えるべく多くの者が撮影に挑戦した写真を、大勢の人が何度も見た経験。
- ④ 本来は人間が視認できない対象物を捉えた写真を、他人同士である者たちが同じように解釈する経験。

大問 ① 著作権者：伊藤亜紗

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』から一部引用

【許諾情報】

URL：<http://www.jcea.info/license2026/G0162-261123452.html>

大問 ② 著作権者：港千尋『写真論』から一部引用

【許諾情報】

URL：<http://www.jcea.info/license2026/G0162-261123454.html>